

## 第2回塩竈市長期総合計画審議会の概要

|                  |   |
|------------------|---|
| 日 時              | 令和元年 12 月 26 日（木） 18:30～20:35   |
| 場 所              | 塩竈市役所 3 階北側委員会室   |
| 出席委員             | 柳井会長、草間委員、佐々木委員、渡辺委員、丹野委員、下館委員、土井（儀）委員、田中（京）委員、佐藤（京）委員、中村委員、赤石委員、櫻井委員、志賀委員、佐藤（英）委員、江湖委員、菊地委員、土井（萬）委員、内海委員、本間委員、大山委員、田中（大）委員、太田委員、阿部委員 以上 23 名<br>欠席委員 2 名 |
| 塩 竈 市            | 市長、教育長、各部長<br>（事務局）市民総務部政策課   |
| 委託コンサルタント<br>司 会 | （株）国際開発コンサルタンツ<br>政策調整監   |

### 1. 開会

### 2. 委嘱状交付

市長から、委嘱状を交付（第 1 回欠席委員 7 名）

### 3. 会長挨拶

1 回目は課題について話し合い、今回は現況データをお示しいただくとともに、計画の構成の考え方の説明をいただきます。次の第 3 回目はより具体的な話し合いとして議論いただく予定ですが、今回は 1 回目と 3 回目の橋渡しとして重要となりますので、よろしくお願いします。

### 4. 議事概要

#### （1）第 6 次長期総合計画基本構想策定の流れについて

事務局から資料 1 に基づいて説明後、質疑応答、意見交換

（委員）国の縛りがなくなって、これから市、町が独自にこの体制構想を作っていくという流れの中で、最初に情報がないと判断できないが、非常にわかりやすく示された。一方、短期間なので、意向のところを皆さんで積極的に協力して進めるのがポイントになる。

（委員）私は以前市長を二期やっていたが、その際、総務省の方々との話の中で、総合計画と市長の政策をどうリンクさせるかが大きな課題であるといわれていた。市長の任期は 4 年であるが、その間に市長のマニフェストをどう盛り込めるか、また総合計画の作り方は各自治体の裁量に任されているので、従来の 10 年を基本とするとしても、時代の変化に対応して期間を短縮するなど工夫していてもよい。2 年ごとにローリングしているという新潟市の例もある。

（委員）次回は 3 グループごとに検討するとのことであるが、どういう分け方をするのか、またこの委員の人数ではもう少しグループ数を多くしてもよいと思う。

（事務局）3 グループの分け方は確定ではない。審議会メンバー全体での議論より分野別に分けるなどにより細分化することで、より多くの意見が出せるとの考え方である。全委員 25 人の分け方については、会長とも相談しながら事務局でもう少し検討させていただくことにする。

(2) 第5次長期総合計画の総括について

事務局から資料2について説明後、質疑応答、意見交換

(会長) 委員によって違う意見もあるので、第5次長期総合計画の分析が非常に大事になる。1分程度で各委員に質問形式で発言いただき、最後に事務局からまとめて回答をいただくことにする。

(委員) ①資料3「データでみる塩竈市のすがた」のP6の社会動態で、「平成25年に転入が転出を上回って、社会増加に転じ」というのはなぜなのか、また、それ以降は減少傾向にあって、その後はどうなのか。

(委員) ②資料2別冊P2⑩の「魚市場の水揚げ金額」が平成30年で100億円を割ったがそれほど大きな落ち込みではないが、実際は業界の方からは厳しいといわれている。水産加工業の生産額も基準値513億円に対し、平成29年600億円であるが、やはり水産加工業界も現状で非常に厳しいと皆さんおっしゃる。データと実感が離れている印象であるが、説明いただきたい。

(委員) 大変分かりやすい資料だと思う。その中で資料2別冊P4第2編「海と歴史を活かすまち」で、浅海養殖漁業が浦戸とその他で分けているのは何か意図があるのか。

(委員) 資料2別冊⑫の「まちなみや景観の満足度」の58%という基準値は何をもって基準としたのか。

(委員) 資料2別冊⑤の「元気高齢者の割合」が減少とあるが、実際には高齢化率も高くなり、介護認定を受けている方も多くなっているが、「もっと元気になりたい」としてデイサービスに行くために介護認定を受けている方も増えているので、この点は疑問である。

(委員) 同じ項目で、民生委員として「地域支え合い活動」など行っていると、塩竈市は高齢者数の割に他の地域より高齢者の元気度は高まっているので、この点は同様に疑問である。

(委員) 資料2別冊5⑮の「1人1日あたりの家庭系ごみ量」は、燃えるごみ、燃やせないごみなどのどういったごみが増えたり、減ったりしているかなどの量の関係を知りたい。

(委員) 資料2P49(2)の「1時間以上家庭学習をしている児童生徒の割合」のグラフで、平成30年度の小学生が急激に落ちているのは何か理由があるのか。

(委員) 資料2P31第2編(2)「海と歴史を活かすまち」の「新商品開発事業による新商品数」のグラフは平成27年度のみ20個の新商品の開発が行われ、その他はゼロとなっているのはなぜなのか。

(委員) 資料2全体について、現状の問題が何で、それに対する課題設定の背景がよくわからない。また、「継続必要性・重要性」の「おおいにある」と「ある」の違いや「非常に高い」と「高い」の違いがよくわからない点について知りたい。

(委員) 若手で過去によくわからない点も、資料2別冊により今後の課題が見つけやすい印象である。

(委員) 資料2別冊⑰の浅海養殖の水揚げはどこの水揚げを示しているのか。

(委員) 資料2別冊P4の代表的な指標(H30年度実績)の項目のうち、「さらに努力」「達成は厳しい」が全体の4割を占めているというのは、設定に問題がなかったのか確認したい。

(委員) 資料2のP38の代表的な指標のうち、まちなか歩行者数の市内4地点とは、どこなのか。

(委員) 資料2別冊⑳の「中学生の不登校の割合」で、小学生ではどれぐらいの割合か。また学校の別室登校している割合はどのぐらいなのか。

(委員) 資料2別冊㉑の「スポーツ振興の満足度」は、60.6%と基準値の64.2%を下回っているのは、なぜなのか。

(事務局)

○社会増減に関して(資料 2P6)

外国人労働者や子育て世代の流入が見られる一方、10代後半から20代の大学進学や就職で出ていくという状況である。子育て・3世代同居近居住宅取得支援事業の効果などもあって、塩竈市は近年何とか人口を保っている状況である。

○水揚げ高、水産加工業のデータ数値と実際の業界の実感の乖離に関して(資料 2P6)

資料 2 別冊⑩の水揚げ高は塩竈市魚市場の水揚げ高の実数である。本市の魚市場の2つの柱は、生のマグロと遠洋底引き網漁業で採れる冷凍の水産物である。本マグロは漁獲規制の対象となって資源管理が厳しくなっている。遠洋底引き網漁業については資源の枯渇の問題で操業する船の減少が著しい。こうした点で、水産業界では厳しい環境となっている。そのため、漁獲規制の対象にならないイワシやサバなどの水揚げを増やしていく方向で取り組んでいる。

水産加工業は、かまぼこなどの加工品のほか、生魚を冷凍庫で凍結することも加工として扱われている。震災後、国の手厚い補助制度などで冷凍庫の取扱量も増えているため、統計的に水産加工業の取扱量が増えている。一方、練り製品などの水産加工品は輸入原料に頼っているが、世界的な健康志向等から需要が高まって加工原料の価格が高騰してきている。加えて量販店との競争から商品原価と販売価格に差がなく儲けが少ない。また、働き手が少なくなっていることから人件費が上がり、外国人に頼っている状況で、実感として厳しい状態が続いている。

○水揚げ高、水産加工業のデータ数値と実際の業界の実感の乖離に関して(資料 2 別冊⑪、⑫)

⑪は浦戸も含めた塩竈市全体の浅海養殖漁業、⑫はそのうち、浦戸の部分だけとなっている。浦戸は計画の中で別の章立てとしてしているため、本編では⑪が第2編第1章、⑫が第4章である。

○元気高齢者について(資料 2 別冊⑬)

「元気高齢者」というのは、65歳以上人口の中で介護認定を受けていない方である。8,9年前から介護認定の条件が緩和されたため、サービスは使わないけれど、とりあえず認定を受けるという方がだいぶ増えているという状態である。こうした方が(スポーツ等の)教室に参加して元気に活動している場合もある。

新たな長期総合計画では「元気高齢者」の「元気」とは何なのか、指標の新たな見方を実態に即して修正すべきかと考えている。

○ごみの内訳(資料 2 別冊⑭)

平成30年度の決算ベースによると、可燃ごみが9,388トン/年、不燃ごみが650トン/年と、可燃ごみが不燃ごみより圧倒的に多い状況である。

○小学生の家庭学習が平成30年度に急激に落ちた理由(資料 2P49(2))

小学生は3年生ごろから学習につまづき始め「10歳の壁」というのがあり、中学生になるにつれ授業がわからなくなる子どもが増えてくる。そのため本市では「わかる授業をしよう」という取り組みを進めている。またチャレンジ教室等、放課後に勉強できる場を用意するなどの取り組みを行っていることなどで、今年度はその成果が出たものと考えている。

○新商品の開発に関する平成27年度20件という数字の件(資料 2P31)

平成27年度は補助事業による市の事業として「新商品の開発」を支援し、20件20品目が生まれた。それ以降は事業はないためゼロと計上しているが、実態としては皆さんさまざまな取り組みをしていただいていると考えられる。

○資料2の書き方で、今後に向けた課題と方向性の連関性が読み取れないという質問について

本資料は概要版であり、わかりにくい面があったかもしれないが、本編では詳細に記述している。

○活性化していない部分の設定の方法について（資料 2 別冊 P4）

問題があったのではないかと指摘について、この点は第 6 次の課題、問題の議論の軸となる。また、設定自体は 8 年～9 年前のことで現状と変化してきているから、市としても分析して今後の課題とさせていただきたい。

○まちなかの歩行者数の 4 地点について（資料 2 の P38）

マリゲート塩釜、本塩釜駅の南側と北側及び御釜神社の 4 地点である。

○不登校の問題について

小学校の不登校率については、既に全国平均を下回っている。別室登校については手元に数字はないが、かなりの数の子どもがいる。ただし、従来の不登校児童が「適用サポートルーム」「コラソン」（塩竈市学びの支援センター）「けやき教室」などの居場所ができたことで出向いている。教室に復帰している率も高いということで、教育委員会としてはこうした居場所づくりを進めている。

○スポーツの満足度が低下している件について

この原因については「わからない」というのが現状である。

（3）データで見る塩竈市のすがたについて

事務局から資料 3 について説明後、質疑応答、意見交換

（会長）財政力指数が低い値になると事業の自由度がだいぶ奪われ、財政硬直度高くなるということで、新規事業がなかなかできなくなるので、この点留意する必要がある。

（委員）医療・福祉に関して資料 3 の P37 病床数が年々減少して、平成 19 年の 1,146 床が平成 29 年には 990 床と 10 年で 156 床下回っているが、これは県の医療計画による数字だと調べた。包括ケアベッド数には少し枠があるということですが、今後 2025 年に向けて病床数が減るといふのは不安である。

（事務局）国が進めている地域包括ケアシステムという考え方の中で、都道府県単位で作る地域医療構想では、いわゆる急性期の救急の病床数は多いという考え方で少しずつ減らす方向である。その一方で、地域包括ケア病床、いわゆる回復期の病床数は少ないので増やしていこうという考え方がある。

塩竈市は仙台医療圏に分類されているが、仙台医療圏全体としてみると病床数はまだ少ない、ただし急性期の病床数は多い。したがって急性期を減らして回復期を増やすという考え方がある。

こうした考え方によるかどうかについては、今後、各医療機関、各地域別の調整会議が行われ、その中で病床数も検討される見込みである。

（委員）全体的な問題として、簡単なものでもデータ、数字がないと動かないので、データをもとに考えていくべきである。データの見方は人によって非常に変わるし、数字はいじることができるので、実態と合わせてみていく必要があるが、データはデータとしてきちんと押さえるのが重要である。

かつての総合計画では、指標が低いと上げることがあったが、今はもうそういう時代ではないので、むしろ課題に対しどのようにあるべき姿にしたいのか、したくないのかを市民が考えて、課題を解決するのであれば、どのように解決すべきかについてアイデアを出す時代となっている。

今日はそのたたき台となる情報公開としてデータを出していただいたと考えている。

（委員）今日の資料によって塩竈市の姿がつかめた感じがする。視点として 4 つある。産業振興対策、少子化対策、高齢化対策と移住対策等がある。

この中で次期計画でもインセンティブを入れるべきである。つまり達成した人には、何かキックバックとなる現金または現物が1つあるとよい。

視点としては、教員養成校の大学と協定を結んだり、ごみ処理場の民間委託などによりコストが大幅に下げられる。

元気高齢者について、被介護認定率は（ ）書きで示さないとわかりづらいと感じた。

また、一昨日の日経の1面に出ていたMaas（Mobility as a Service）移動サービスの視点が必要である。

もう一点、競争入札で数字が上がらないときは入札から除外する。道路工事などでボランティアを受け入れるとか、障害者の雇用率を達成しているとかでポイント制にするなど、国交省の指導にあるようにインセンティブを政策に入れると数字を上げる圧力になる。

（会長）今の話は、次回第3回以降で深く出てくるイノベーションの視点から新しい切り口での話をいただきました。

#### （4）第6次長期総合計画の策定について

事務局から資料4について説明後、質疑応答、意見交換

（委員）総合計画というのは、全体像も一つあるが、地方分権になって首長によるところが大きい。

4年とか3年で（首長が）変わった点をどう入れるかが重要である。大きな出納計画などはあまり変わらないが早くなるとか、整備は変わらないけれど個別の点で特に重要視したいというものをリンクさせないと市民には見えにくいので、工夫する必要がある。

（委員）計画が10年である必要はないという話を聞いて、確かに10年は長いと思う。今、グローバル化が進んでいて世界情勢に非常に影響されやすいため、10年間で将来を見通すのはなかなか難しい。今回いろいろなケースの資料を見て10年で考える必要はないと思う。

（委員）情勢の変化や、今日の資料で短期間でいろいろ変わっている分野があるなど、10年という長期間で見るというより、短いスパンで毎回計画を見直すというのにも必要かと考えました。

#### （5）市長から

（市長）第2回の審議会に年末押し迫ったところで、お集りいただき心から感謝申し上げます。今日は2回目ということで、データで見る塩竈市の姿ということをお示しさせていただきました。

私は市長になって3ヶ月で、日一日と大変厳しいところに来てしまったというのが率直なところです。古き良き塩竈を知っている皆さまであれば、その時代と今の時代がどのように変化したかご存じだと思います。それと同時に古き良き塩竈の大変素晴らしい時期は、私から見ると昭和30年代、40年代の頃だと思いますが、そのころに庁舎をはじめ、学校など多くの建物が一気に建てられています。これらが今一気に建替えの時期に来ています。

塩竈、多賀城、利府、松島、七ヶ浜の2市3町の中心地は、その時代は間違いなく塩竈で、塩竈に来れば食いつぱぐれがないといった状況でしたが、今の塩竈の状況と比較していくことが重要だと思っています。

私の感覚では、もはや2市3町の中心地は塩竈ではないということで、そのプライドをまずは捨てるべきで、今の「素の部分」を皆さまに知っていただきたい。その一つの事例として、今日お示した「データで見る塩竈の姿」というところから見える部分があり、または数字で見えない感覚というものがあるかと思っています。そういったことを、今日、皆さま方の議論をお聞きする中で改めて自分の感覚とかけ離れていないと思ったところです。

基本計画に沿ってこれからまちづくりが始まりますが、あくまで計画なので、周辺環境の変化は計画どおりにいかないわけで、いつ何が起ころかわからない。そのことを我々もしっかり認識しなければならないと思っています。

「着飾った塩竈」ではなくて、まずは「素の塩竈」から皆さま方の議論を始めていただき、今の状況にあった形での塩竈をこれからどうしていくのかという議論を是非進めていただきたい。また同時に市庁舎についても、市立病院の問題についても、ごみ処理の問題についても、今の塩竈市の財政状況では一気に建替えることはできないという大変厳しい現実があります。ですから、我々としてはこのような問題についてしっかり整理しなければならないと感じています。

皆さまには、日ごろ感じていらっしゃるお気持ちや、これからの塩竈市に対する思いをざっくばらんにお話しいただき、我々に、もっと今の厳しい世情、世相の状況を教えていただければありがたいと思っています。

皆さま方のご意見がこれからの塩竈の新しい時代を作っていく第 1 歩になるわけですので、大所高所からご指導いただきますよう心からお願い申し上げます。